



8 16農園

取手市

サロン開設年月日	平成19年7月21日
開催日及び開催頻度	毎週日曜日 ※但し冬季・夏季は頻度を下げる
開催拠点	16農園 (取手市上萱場・農村公園近傍)
代表者氏名	山下 勲
代表者電話番号	☎ 0297-82-6485
1回の参加人数	平均 7人
1回の運営スタッフ数	平均 5人
参加費	年6,000円

年間予算額及び主な財源

年間予算額	42,000円
(内訳)参加費	42,000円



サロンのテーマ・目的

- 定年退職者の居場所づくり（農耕を通じた心身の健康維持）。
- 遊休地の活用による環境保全。
- 収穫野菜を使った料理実践。
- 収穫野菜を使った加工技術習得（漬物・味噌）。
- 収穫野菜を地域交流に活用（保育園児の芋掘会・白菜の社会福祉施設への寄贈）。

活動の概要

- 農園のメリットとして「生活にリズムが生まれる」・「新鮮な野菜を取れる」こともあります。とりわけ「育てる楽しさ」が大きい。さらに多人数で教えあい、支え合いながらの共同作業は、「心の安らぎ」をもたらしてくれる。これが「本当の豊かさ」と思えるようになってきました。

サロンの特徴

- 農耕を通じた共同作業により、心身ともに充実できる。
- 収穫したものを加工する事により、喜びと新しい発見が出来る（料理・漬物・味噌づくり・瓢箪の絵付け等）。

身近な人材や施設など地域の社会資源の活用

- 遊休地：開墾して活用。
- 公民館の調理室：漬物実習。
- 農業公社：味噌製造設備の活用。
- 取手市社会福祉協議会：白菜寄贈時の寄贈先の推薦。





サロン実施にあたって苦労したこと

人集めに関して

- 多く参加出来る曜日の調整が難しいので、作業内容により曜日の設定を変えました。
- 近隣の農家さんとコミュニケーションを密にし手助けを得ました。
- 作物を作るだけでは参加者が限られるので、収穫野菜を使った料理や加工（漬物・味噌）、瓢箪の絵づけ等新しいことに取り組むことにより、賛同者を増やしました。

活動拠点に関して

- 拠点近くの知人や近隣の農家の協力を得て行いました。

財源に関して

- 会費のみ。
- 支出は種子・肥料・飲料・茶菓子程度であり、明朗会計を心がけています。

お誘い 16周年の会員募集

当会は平成17年4月に市民の有志によって発足した「元気に楽しく活動しているサークル」です。メンバーは22名編成です。

主な活動内容

1. 市内を巡回、その見聞をマップや手づくりしらは数多く、お土産に紹介
2. 大人から子どもまで一緒に楽しめる「ガーベラ園（アラスカ）の園芸」
3. 地域の清掃や社会貢献活動（お花見）のお手伝い
4. イベントの旅行・卒業会・花見等の開催づくり（おしゃべり）
5. 趣味活動・研修会・各種講習会等の開催や交流
6. 会員有志による農園での野菜の栽培・漬物・みそ作り等

当会は「遊び・ボランティア・勉強」等、メンバーの健康でいろいろなことを行いたいという思いがけい活動しているユニークなサークルです

入会費 随時（少、入会がベストです⇒4月より新年度のため）
年会費 2000円
定例会 毎月 第3土曜日午前中 藤代公民館で開催

会長 山下 勲 tel&fax 82-6485
 副会長 野々下 善一 tel&fax 82-5895

入会連絡先
 電話でお気軽にどうぞ、留守のときは折り返しお電話をいたします

サロン開催の効果

- 土を耕し作物をつくる・加工などをつうじて多くの方と喜びや感動を共にすることで、素直な気持ちで付き合いの輪が広がるのがうれしい。
- 近隣の農家さんとの交流も増え、日常生活では得られない知識や感動を得ています。
- ちびっ子の芋掘り会や老人福祉施設への野菜寄贈では、子どもや大人の「とびっきりの明るい笑顔や感謝の言葉」に元気をもらっています。
- 社会福祉協議会や保育園等に活動が認められ、年々期待が高まっており、農園メンバーのやる気も高く、心身ともに充実しています。

サロン開催の課題、今後のサロン活動への想い

- より多くの人に作物を育てる喜びや、作業の楽しさを体験させたい。
- 作物を活用し、「地産地消」を楽しみながら広めていく。
- 子供に収穫のみでなく、収穫までのプロセスも経験させる。
- メンバーが高齢になっており、新メンバーの獲得が大きな課題です。



委員からの一言コメント

会員の皆さんがそれぞれ会社人間として生活をしてきて、定年になり、さて、何をして過ごそうかと考えた時に、平成16年、町主催の男性学校講座を受けてこの会の皆さんと知り合いになり、発足しました。農作業などしたことのない男性が、荒れた農地を開墾して今では玄人となり、沢山の野菜が取れて知己の交流をしながら、社会福祉施設、保育所などに提供したり、市の行事に積極的に参加しています。定年後の男性を「ぬれ落ち葉」と言いますが、この会員の皆さんは「毎日が楽しくて仕方がない」。こんな状況でした。（梁谷桂子 委員長）